

入札説明書

令和5年札幌市告示第4088号に基づく入札等については、札幌市契約規則、札幌市物品・役務契約等事務取扱要領その他関係法令に定めるもののほか、この入札説明書によるものとする。

1 告示日 令和5年9月15日

2 契約担当部局

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
札幌市まちづくり政策局 総合交通計画部 都市交通課 都市交通係
電話 011-211-2492 F A X 011-218-5114
E-mail sogokotsu-keiyaku@city.sapporo.jp

3 入札に付する事項

(1) 役務の名称

令和5年度駐車場利用実態調査業務

(2) 調達案件の仕様等 仕様書による。

(3) 履行期間 契約締結の日から令和6年3月22日まで

(4) 入札方法 総価で行う。なお、落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額（1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。）をもって落札とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

4 入札参加資格

(1) 地方自治法施行令第167条の4の規定に該当しない者であること。

(2) 会社更生法による更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法による再生手続開始の申立てがなされている者（手続開始決定後の者は除く。）等経営状態が著しく不健全な者でないこと。

(3) 札幌市競争入札参加停止等措置要領に基づく参加停止措置を受けている期間中でないこと。

(4) 事業協同組合等の組合がこの入札に参加する場合は、当該組合等の構成員が、構成員単独での入札参加を希望していないこと。

(5) 令和5・6年度札幌市競争入札参加資格者名簿（工事・建設関連サービス・道路維持除雪）において、業種が「建設関連サービス業」の「建設関連調査サービス業」に登録されている者であること。

(6) 札幌市内に本店又は支店等の所在地を有すること。

(7) 国又は地方公共団体が発注した交通に係る調査の業務および交通に係る計画策定の業務を元請として履行した実績があること。

5 入札書の提出方法等

(1) 契約条項を示す場所及び問い合わせ先

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎5階
札幌市まちづくり政策局 総合交通計画部 都市交通課 都市交通係
電話 011-211-2492 F A X 011-218-5114

(2) 入札書の受領期限

令和5年10月2日（月）9時00分（送付による場合は前営業日必着）

(3) 入札書の提出方法

入札書は、別紙の様式にて作成し、持参又は送付により提出すること。なお、提出にあたっては以下に留意すること。

ア 入札書を直接持参する場合は封筒に入れ封印し、かつ、その封皮に氏名（法人の場合はその名称又は商号）及び「令和5年10月2日（月）9時30分開札「令和5年度駐車場利用実態調査業務」の入札書在中」の旨を記載し、上記2あてに令和5年10月2日（月）9時00分までに提出しなければならない。

イ 入札書を送付により提出する場合は二重封筒とし、外封に「令和5年10月2日（月）9時30分開札「令和5年度駐車場利用実態調査業務」の入札書在中」の旨を記載し、上記2あてに令和5年9月29日（金）までに届くよう送付しなければならない。

なお、電報、ファクシミリ、電話その他の方法による入札は認めない。

ウ 入札者は、その提出した入札書の書換え、引換え又は撤回をすることができない。

(4) 調達案件の仕様等に対する質問及び回答

ア 提出方法 「公示用設計図書の施行条件等に対する質問票」（様式1）を用いて、電子メー

ル又はファクシミリにより提出すること。なお、面談や電話による質問は受け付けない。

イ 提出先及び提出期限 上記2の契約担当部局へ、令和5年9月22日（金）17時15分までに提出すること。

ウ 回答の方法 質問を受理した日の翌日から起算して2日以内（土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）を除く。）に質問者に回答するとともに、質問及び回答の内容を、札幌市公式ホームページ内「交通計画・施策」の入札情報のページ(<https://www.city.sapporo.jp/sogokotsu/nyusatsu/>)に掲載する。

(5) 入札の無効 本書に示した競争参加資格のない者のした入札、入札に関する条件に違反した者のした入札その他札幌市契約規則（平成4年規則第9号）第11条各号の一に該当する入札は無効とする。

(6) 入札の延期等

次のいずれかに該当したときは、当該入札を延期し、中止し、又はこれを取り消すことがある。

ア 入札者が相連合し、又は不穩の挙動をする等の場合であって、競争入札を公正に執行することができない状態にあると認められるとき

イ 天災その他やむを得ない事情が発生した場合であって、競争入札を公正に執行することができない状態にあると認められるとき

ウ 調達を取りやめ、又は調達内容の仕様等に不備があったとき

(7) 代理人による入札

ア 代理人が入札する場合には、入札書に入札参加資格者の指名、名称又は商号、代理人であることの表示、及び当該代理人の氏名を記入して押印（外国人の署名を含む。）をしておくとともに、開札時まで代理委任状を提出しなければならない。

イ 入札者又はその代理人は、本調達に係る入札について他の入札者の代理人を兼ねることができない。

(8) 開札の日時及び場所

令和5年10月2日（月）9時30分

札幌市役所本庁舎5階 総合交通計画部事務室

(9) 開札

ア 開札は、入札事務に関係のない職員を立ち合わせて行う。ただし、入札者又はその代理人が立ち会いを希望する場合は、入札者又はその代理人を立ち合わせて行う。

イ 入札者又はその代理人が立ち会う場合、入札者又はその代理人は、入札時刻後においては、入札場に入場することはできない。

ウ 入札者又はその代理人は、入札場に入場しようとするときは、入札関係職員の求めに応じ入札参加資格を証明する書類、身分証明書又は入札権限に関する委任状を提示しなければならない。

エ 入札者又はその代理人は、入札執行職員又はその補助者が特にやむを得ない事情があると認められた場合のほか、入札場を退場することができない。

オ 開札をした場合において、入札者又はその代理人の入札のうち、予定価格の制限の範囲内の価格の入札がないときは、再度の入札を行う。なお、再度入札の回数は、原則として2回を限度とする。

7 その他

(1) 入札保証金 免除

(2) 契約保証金 要。ただし、札幌市契約規則第25条の規定に該当する場合は免除する。

(3) 最低制限価格の設定 無

(4) 落札者の決定方法等

ア 落札者の決定

札幌市契約規則第7条の規定に基づき作成された予定価格の制限の範囲内で、最低価格をもって有効な入札を行った者を落札候補者として、落札を保留のうえ下記ウの審査を行い、入札参加資格を有する者と確認できた場合に、落札候補者を落札者とする。

イ 同額抽選

落札候補となるべき同価格の入札をした者が2人以上いるときは、直ちに、当該入札者にくじを引かせて落札候補者の審査の順位を決定するものとする。この場合において、当該入札者又はその代理人がくじを直接引くことができないときは、これに代えて、当該入札事務に関係のない職員がくじを引くものとする。

ウ 入札参加資格の審査

落札の決定を保留した後、落札候補者の入札参加資格について審査（事後審査方式）する。

落札候補者は、入札執行者の指示があった日（原則として開札日）の翌日から起算して3日以内（土曜日、日曜日及び休日を除く。）に、上記4の入札参加資格を有することを証する書類（下記(5)参照）を提出しなければならない。なお、指定期限までに提出がない場合は、当該落札候補者による入札を入札参加資格のない者のした入札と見なし無効とする。

エ 入札参加資格を有しなかった者の取扱い

上記ウの審査の結果、落札候補者が入札参加資格を有しない者であることを確認した場合は、

その者のした入札を無効とし、次順位者を新たな落札候補者として上記ウの審査を行う。以後、落札者が決定するまで同様の手続を繰り返す。

オ 落札結果の公表

入札結果については、札幌市公式ホームページ内「交通計画・施策」の入札情報のページ (<https://www.city.sapporo.jp/sogokotsu/nyusatsu/>) に掲載する。

(5) 入札参加資格を有することを証する書類

ア 一般競争入札参加資格確認申請書（様式2）

イ 同種業務等実績書（様式3）

ウ 競争入札参加資格認定通知書の写し

(6) 落札の取消し

落札者が次の各号の一に該当するときは、落札決定を取り消すものとする。

ア 契約の締結を辞退したとき、又は市長の指定した期日以内に契約を締結しないとき。

イ 入札に際し不正な行為をしたと認められるとき。

ウ その他入札に際し入札参加の条件に欠けていたとき。

(7) 契約書の作成

ア 入札を執行し、契約の相手方を決定したときは、原則としてその5日後（土曜日、日曜日及び休日を除く。）までに契約書を取り交わすものとする。

イ 契約書を作成する場合において、契約の相手方が遠隔地にあるときは、まず、その者が契約書の案に記名押印し、更に市長が当該契約書の案の送付を受けてこれに記名押印するものとする。

ウ 上記イの場合において市長が記名押印したときは、当該契約書の1通を契約の相手方に送付するものとする。

エ 市長が契約の相手方とともに契約書に記名押印しなければ、本契約は確定しないものとする。

(8) 契約条項 別添のとおり

(9) 入札参加資格が認められなかった者に対する理由の説明

入札参加資格が認められなかった者は、本市に対して入札参加資格が認められなかった理由について、入札が行われた日の翌日から起算して10日以内（土曜日、日曜日及び休日を除く。）に、次に従い、書面（様式は自由）により説明を求めることができる。

ア 提出場所 上記2に同じ

イ その他 提出は持参によるものとし、送付又は電送によるものは認めない。

公示用設計図書の施行条件等に対する質問票

令和 年 月 日

総合交通計画部 都市交通課 都市交通係 あて

会 社 名

電話番号

F A X 番号

E-mail

担当者（所属（職）

氏 名)

公示用設計図書に係わる施行条件等について、次のとおり質問いたします。

入札等予定年月日	令和 年 月 日 時 分
役務名	
質 問 内 容	

注 1 質問票のあて先は、都市交通課都市交通係あてとする。

注 2 質問がある場合は、必ず文書により質問することとし、回答についても文書にて行います。

注 3 役務ごとに記載し、欄が足りない場合は別紙としてください。

回 答

回 答 内 容	

一般競争入札参加資格確認申請書

年 月 日

(あて先) 札幌市長

住 所

商号又は名称

代表者氏名

印

債権者コード

令和5年9月15日付けで入札告示のありました令和5年度駐車場利用実態調査業務に係る入札参加資格について、確認されたく、下記の資料を添えて申請します。

なお、申請者は下記1の要件をすべて満たす者であること、並びにこの申請書及び下記2の資料の内容については事実と相違ないことを誓約します。

記

1 入札参加資格

- (1) 地方自治法施行令第167条の4の規定に該当しない者であること。
- (2) 会社更生法による更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法による再生手続開始の申立てがなされている者（手続開始決定後の者は除く。）等経営状態が著しく不健全な者でないこと。
- (3) 札幌市競争入札参加停止等措置要領に基づく参加停止措置を受けている期間中でないこと。
- (4) 事業協同組合等の組合がこの入札に参加する場合は、当該組合等の構成員が、構成員単独での入札参加を希望していないこと。
- (5) 令和5・6年度札幌市競争入札参加資格者名簿（工事・建設関連サービス・道路維持除雪）において、業種が「建設関連サービス業」の「建設関連調査サービス業」に登録されている者であること。
- (6) 札幌市内に本店又は支店等の所在地を有すること。
- (7) 国又は地方公共団体が発注した交通に係る調査の業務および交通に係る計画策定の業務を元請として履行した実績があること。

2 一般競争入札参加資格確認資料

同種業務等実績書

契約書・請書の写し または 「テクリス」の登録内容確認書の写し

設計書・仕様書 その他資料（

）

競争参加資格認定通知書の写し

注1 添付した資料については、資料名の左のにチェックすること。

注2 その他の資料を添付した場合は、当該資料の名称を記載すること。

同種業務等実績書

会社名 _____

①	業務名				テクリス登録番号
	発注者		契約金額		
	履行期間	年 月 ～ 年 月			
	業務概要				
②	業務名				テクリス登録番号
	発注者		契約金額		
	履行期間	年 月 ～ 年 月			
	業務概要				
③	業務名				テクリス登録番号
	発注者		契約金額		
	履行期間	年 月 ～ 年 月			
	業務概要				
④	業務名				テクリス登録番号
	発注者		契約金額		
	履行期間	年 月 ～ 年 月			
	業務概要				

- 注1 直近の業務を4件まで記載すること。
 2 「テクリス」に登録している業務については、登録番号を記載すること。
 3 契約書・請書の写し、または「テクリス」登録内容確認書の写しを添付すること。
 4 業務の内容が確認できる書類（設計書、仕様書その他申請者が必要と判断した書類）を添付すること
 5 この様式により難しい場合は、この様式に準じた別の様式を使用することができる。

入 札 書

入 札 金 額	金 円
調 達 件 名	令和5年度駐車場利用実態調査業務

仕様書その他の書類、現場等を熟覧のうえ、札幌市契約規則、札幌市競争入札参加者心得及びその他関係規定等を遵守し、上記の金額で入札します。

なお、札幌市議会の議決に付すべき契約に関する条例及び札幌市財産条例の適用を受ける場合においては、同議会の同意を得た後に契約を締結することを承知いたします。

年 月 日

(あて先) 札幌市長

入 札 者 住 所
商号又は名称
職 ・ 氏 名 印

入札代理人 氏 名 印

- 備考 1 代理人が入札する場合の訂正は、代理人の印鑑で行うこと（ただし、金額の訂正はできない。）。
- 2 代理人が入札するときは、入札者の押印を要しない。

委任状

年 月 日

(あて先)
札幌市長

住 所
委任者 商号又は名称
職 ・ 氏 名 印

調達件名 令和5年度駐車場利用実態調査業務

私は、下記の者を代理人として定め、上記入札に関する一切の権限を委任します。

記

受任者 氏 名 印

- 備考1 見積の場合は、「入札」とあるのを「見積」と読み替える。
2 代理人（受任者）の印は、入札（見積）書に使用する印と同一の印を押印すること。
3 委任状の訂正は、委任者の印鑑で行うこと。

令和5年度施行

設 計 書

業務名：

令和5年度 駐車場利用実態調査業務

札幌市まちづくり政策局総合交通計画部

業 務 名 令和5年度 駐車場利用実態調査業務

総委託費 _____ 円

一 金 内 訳 { 委託費 _____ 円
消費税等相当額 _____ 円

業 務 説 明

1. 業務の目的

札幌市都心部の大型商業施設では、休日等には入庫待機車列が発生し、周辺の交通混雑の要因となっていることや、北海道新幹線開業に伴い活発化している都心部の開発に対応するため、駐車施策の検討が急務であり、併せて、公共交通利用への転換についても検討が必要である。

本業務では、これらの課題解決に向けて、駐車場の利用状況や入庫待ち車列の状況、駐車場利用者および駐車場事業者へのアンケート調査を行い、駐車場の利用実態の調査を行う。

2. 業務の概要

- 検討対象区域 ⇒ 札幌圏都市計画_駐車場整備地区（約383ha）
- 駐車場利用台数調査
- 交通環境調査
- 駐車場利用に関する実地アンケート調査
- 駐車場事業者WEBアンケート調査
- とりまとめ・報告書作成

3. 仕様書・要領

別紙「仕様書」による

4. 業務の期間

契約締結日より、令和6年3月22日までとする。

令和5年度駐車場利用実態調査業務 仕様書

1. 業務の目的

札幌市では、平成 30 年に「札幌市建築物における駐車施設の附置等に関する条例」を改正し、都心部である駐車場整備地区における附置台数の緩和、隔地距離の緩和、公共交通利用促進措置等による台数緩和制度の新設等を行った。

一方、都心部の大型商業施設では、依然として休日等には入庫待機車列が発生し、周辺の交通混雑の要因となっていることや、北海道新幹線開業に伴い活発化している都心部の開発に対応するため、駐車施策の検討が急務であるとともに、併せて、公共交通利用への転換についても検討を行う必要がある。

本業務では、これらの課題解決に向けて、駐車場の利用状況や入庫待ち車列の状況、駐車場利用者および駐車場事業者へのアンケート調査を行い、駐車場の利用実態の調査を行う。

なお、課題解決に向けた検討等は、令和6年度以降に実施することを予定している。

2. 調査対象区域

本業務は、札幌圏都市計画_駐車場整備地区(約 383ha)(別紙1)を主な調査対象区域として調査を行う。なお、本仕様書においては、当該区域を「都心部」と表現する。

3. 業務内容

都心部駐車場の利用状況や周辺道路に生じている駐車場入庫待ち車列状況等を調査するとともに、駐車場利用者および駐車場事業者にアンケート調査を行う。

1) 駐車場の利用台数調査

以下の調査手法に従い、駐車場の利用台数調査を行う。

① 調査内容

1時間ごとの駐車台数(在車台数)

② 調査手法

下に示す5つの調査手法を想定している。調査手法は、受託者が調査対象の駐車場事業者と協議のうえ決定すること。

調査手法	手順
1) 駐車場管理員聞き取り	調査当日、1時間ごとに現地調査
2) 駐車台数(空車台数)の目視計測	調査当日、1時間ごとに現地調査
3) 出入台数計測による駐車台数算出	調査当日、常時現地調査
4) 駐車台数等を表示している電光表示盤の目視確認	調査当日、1時間ごとに現地調査
5) 調査当日の利用データ受領	調査日以降、駐車場事業者からデータ受領

③ 調査対象

平成 27 年度調査の調査対象駐車場(39 箇所)を基本とするが、次の指標を目安に業務主任と打ち合わせの上、調査対象とする駐車場を約 40 箇所選定する。

◆指標

- ・目的別(商業、事務所等)
- ・原因別(附置義務、大店立地法、民間事業等)
- ・構造別(平面、立体自走、機械式等)

- ・場所別(札幌駅周辺、大通周辺、すすきの地区等)
- ・建築物の規模別
- ・その他(共通チケット導入駐車場等)

選定した調査対象駐車場はすべて平日・休日それぞれ1日ずつ調査することを基本とするが、駐車場の属性(事務所系、商業系など)や事業形態(平日または休日のみ営業など)に応じて、業務主任と打ち合わせの上、平日調査または休日調査を区分すること。

④ 調査時間

9:00~20:00

⑤ 時間区分

データは1時間単位(例:9時台、10時台)で収集および整理すること。

⑥ 調査日

10月または11月の秋季の平日・休日および1月または2月の冬期の平日・休日の延べ4日間を想定。業務主任と打ち合わせの上、イベントなど特異状況ではない日を調査日とし、予備日も事前に決定すること。悪天候または大雪により著しく道路状況が悪化している場合は調査を延期して予備日に実施する。

⑦ 駐車場事業者への調査協力依頼

駐車場事業者への調査協力依頼は受託者が行う。併せて、駐車場事業者と調査手法を協議して決定すること。依頼にあたっては、駐車場事業者に調査協力に関する依頼文を送付することとし、その内容について、事前に業務主任の確認を得ること。

⑧ 参考

平成 27 年度調査における調査対象駐車場の諸元および調査情報(駐車台数、構造、調査方法、平休調査区分および事業者数、駐車台数の規模別表)を別紙2に示す。

ただし、③に記載のとおり調査対象駐車場は平成 27 年度調査対象駐車場をベースに再選定するため、本業務における調査対象駐車場の諸元および調査情報を確約するものではない。

2)交通環境調査

以下の調査手法に従い、一般車両の駐車場の入庫待ち車列状況の調査を行う。

① 調査内容

1時間ごとの入庫待ち車列の台数および位置

② 調査手法

一般車両の駐車状況や各台数を観測し、状況の変化や台数のピーク等が分かる模式図により整理を行う。

③ 調査区域

調査区域は札幌駅周辺および大通駅周辺(別紙3)とし、調査対象とする駐車場は8箇所を想定している。なお、調査対象駐車場については、受託者と業務主任が打ち合わせの上、詳細を決定する。

④ 調査時間

9:00~20:00

⑤ 時間区分

データは1時間単位(9時台、10時台…19時台)で収集および整理すること。

⑥ 調査日

本業務の1)駐車場の利用台数調査と同日(秋季2日間、冬期2日間の延べ4日間)に調査を行う。

⑦ その他

調査結果のとりまとめは、平成 26 年度調査の成果を参考にすること

3) 駐車場利用に関するアンケート調査

駐車場利用者を対象に、駐車場の利用意向に関する実地アンケート調査を行う。

① 調査対象

駐車場利用者。ただし、調査を行う駐車場は、業務主任と打ち合わせの上、10 箇所程度を選定する。

② 調査方法

駐車場事業者の許可を得たうえで、駐車場内外において、駐車場利用者に対してヒアリング形式のアンケートを実施する。

③ 調査日

10 月または 11 月の平日・休日を想定。調査日は、地区内で大規模なイベントが実施される日や異常気象の場合など、通常と異なる状態が予想される日を避けることとし、業務主任と打ち合わせの上、決定する。なお、本業務の1)および2)の秋季調査日と異なる調査日でもよい。

④ 調査時間

9:00~17:00

⑤ 調査数

平日・休日それぞれ 400 程度の回答数を得られるようにする。なお、調査対象駐車場別のサンプルに過度な偏りが生じないようにすること。

⑥ アンケート内容

業務主任と打ち合わせの上、決定する。なお、以下に現時点での内容のイメージを示す。

- ・回答者属性(居住地域、目的、同行グループ属性および同行人数、滞在時間など)
- ・駐車場選定理由(料金、目的地までの距離、駐車場設備など)
- ・自動車選定理由(身体的な理由、料金等経済的な理由、時間的理由など)
- ・利用予定駐車場が満車だった場合の対応(別の駐車場を探す、〇分程度なら待つなど)

4) 駐車場事業者アンケート調査(Web)

都心部の駐車場事業者を対象に、駐車場事業の運用状況および利用状況に関する Web アンケート調査を行う。

① 調査対象

時間貸し駐車場(時間貸しのみまたは月極と併用)約 140 箇所および月極駐車場(月極のみ)約 20 箇所を想定。時間貸し駐車場は札幌市が選定する。月極駐車場は受託者が選定し、業務主任と打ち合わせの上、決定する。

なお、時間貸し駐車場約 140 箇所について、駐車場事業者数は 120 社程度と想定している。

② 調査方法

本市のスマート申請システムを利用した Web アンケート調査を行うこととし、以下の手順と役割分担を進める。

手 順	役割分担
ア) アンケート内容の検討	受託者
イ) 調査協力依頼文の作成	受託者
ウ) 発送準備(印刷含む)	受託者
エ) 発送(郵送費含む)	札幌市
オ) アンケートフォームの作成	札幌市
カ) データの回収	札幌市
キ) データの分析	受託者

※回収データは csv 形式を想定

③ アンケート内容

業務主任と打ち合わせの上、決定する。なお、以下に現時点での内容のイメージを示す。

- ・諸元(所在地、営業時間、料金、台数、自動二輪の利用など)
- ・構造(広場式、機械式、立体自走式など)
- ・利用状況(平日・休日や時間帯別の主な利用状況など)
- ・懸念や困りごと(低利用で収益が低い、設備更新が高額で実施の目途が立たないなど)
- ・他の事業者(商業事業者、駐車場事業者)との連携(提携や特約等の有無、満空情報の共有や発信に対する考え方、共通チケット制度の導入に対する考え方など)

5)とりまとめ・報告書作成

1)～4)の調査結果を取りまとめた報告書を作成すること。また、報告書の概要版についても作成すること。

調査結果の取りまとめにあたっては、図表等を用いて具体的かつ明瞭に整理し、これら全て報告書として提出すること。報告書の様式、内容及び作成する図面サイズ、表現方法については、適宜、業務主任の確認を得ること。

成果品の著作権は、札幌市に帰属するものとする。

6)打ち合わせ・協議

① 打合わせ回数

業務着手時、中間打ち合わせ1回、成果物納入時の3回行う。

② 協議記録

任意の様式を用いて、各調査、協議内容等の記録簿を作成し、次回打合せ時まで提出すること。

4. 提出資料

受託者は、業務の着手及び完了に当たって、契約約款に定めるもののほか、下記の書類を作成し、札幌市に提出すること。

1)着手時

①業務計画書(下記事項を記載すること)

業務概要、実施方法、工程表、打合せ計画、成果品の品質を確保するための計画、成果品の内容・部数、使用する主な図書及び基準、連絡体制表(緊急時を含む)、使用する主な機器、照査計画、その他必要事項等について記載することとする。

2)完了時

①業務完了届

②成果品(下記内容を含む)

ア 報告書

紙媒体で1部、電子媒体で1部とする。電子媒体は、オリジナルファイル(エクセル等)およびPDF ファイルをそれぞれ提出すること

イ 打ち合わせ記録

様式は任意とする。

ウ 業務月報

様式は任意とする。

5. 貸与資料

本業務においては、以下に記載する資料(業務成果品)の貸与を想定している。
なお、括弧内に、各過年度調査のうち本業務の参考とした各調査項目を表す。

- ①平成 26 年度乗継施設環境基礎調査業務【2交通環境調査】
- ②平成 27 年度札幌市駐車実態調査業務【1駐車場の利用台数調査】
- ③平成 28 年度札幌市駐車場基本方針検討業務【3および4アンケート調査】

6. 業務期間

契約締結の日から令和6年3月 22 日までとする。

7. その他

1) 守秘義務

受託者は、業務上知り得た事項を他人に洩らしてはならない。

2) 疑義の扱い

本業務に疑義が生じた場合は、委託者と協議し、解決に努めなければならない。

(以上)

主な調査対象区域である駐車場整備地区のエリアを示す。



駐車場整備地区	
指定面積	約 383ha
区域	市道北9条線以南 菊水旭山公園通(南9条)以北 石山通(西11丁目)以東 東3丁目通以西 に囲まれた区域
法定年月日	平成元年4月1日
告示番号	札幌市告示第215号

平成27年度調査における調査対象駐車場の諸元および調査情報

箇所番号	駐車台数 (台)	構造	調査方法	平日調査	休日調査
1	230	地下自走式	⑤データ受取	○	○
2	55	平面自走式	②巡回目視カウント	○	
3	207	平面自走式	⑤データ受取	○	○
4	374	平面自走式	①管理員聞取	○	○
5	375	地下自走式	⑤データ受取	○	○
6	854	立体自走式	⑤データ受取	○	○
7	78	平面自走式	②巡回目視カウント	○	
8	77	平面自走式	②巡回目視カウント	○	○
9	576	立体自走式	②巡回目視カウント	○	○
10	32	立体機械式	③出入台数カウント	○	
11	124	立体機械式	⑤データ受取	○	
12	60	立体機械式	⑤データ受取	○	
13	98	立体機械式	⑤データ受取	○	
14	360	地下自走式	⑤データ受取	○	○
15	64	立体機械式	①管理員聞取	○	
16	88	立体機械式	①管理員聞取	○	
17	254	立体自走式	②巡回目視カウント	○	○
18	89	地下自走式	②巡回目視カウント	○	
19	62	立体機械式	③出入台数カウント	○	
20	44	立体機械式	④巡回表示盤確認	○	
21	171	地下自走式	①管理員聞取	○	○
22	200	立体機械式	⑤データ受取	○	
23	366	地下自走式	⑤データ受取	○	○
24	38	立体機械式	③出入台数カウント	○	
25	78	平面自走式	②巡回目視カウント	○	○
26	17	平面自走式	②巡回目視カウント	○	
27	110	立体機械式	①管理員聞取	○	○
28	160	立体機械式	③出入台数カウント	○	
29	120	立体機械式	⑤データ受取	○	○
30	256	立体機械式	⑤データ受取	○	○
31	30	立体機械式	③出入台数カウント	○	
32	22	立体自走式	②巡回目視カウント	○	
33	60	立体機械式	①管理員聞取	○	
34	150	地下機械式	①管理員聞取	○	○
35	412	立体自走式	②巡回目視カウント	○	○
36	53	平面自走式	②巡回目視カウント	○	
37	54	平面自走式	②巡回目視カウント	○	○
38	293	立体機械式	④巡回表示盤確認	○	○
39	32	平面自走式	②巡回目視カウント	○	

駐車場箇所数と事業者数

駐車場箇所数	39
事業者数	33

調査手法別の駐車場箇所数

①管理員聞取	7
②巡回目視カウント	13
③出入台数カウント	5
④巡回表示盤確認	2
⑤データ受取	12

駐車台数の規模別表

～50台	7
51台～100台	13
101台～150台	4
151台～	15

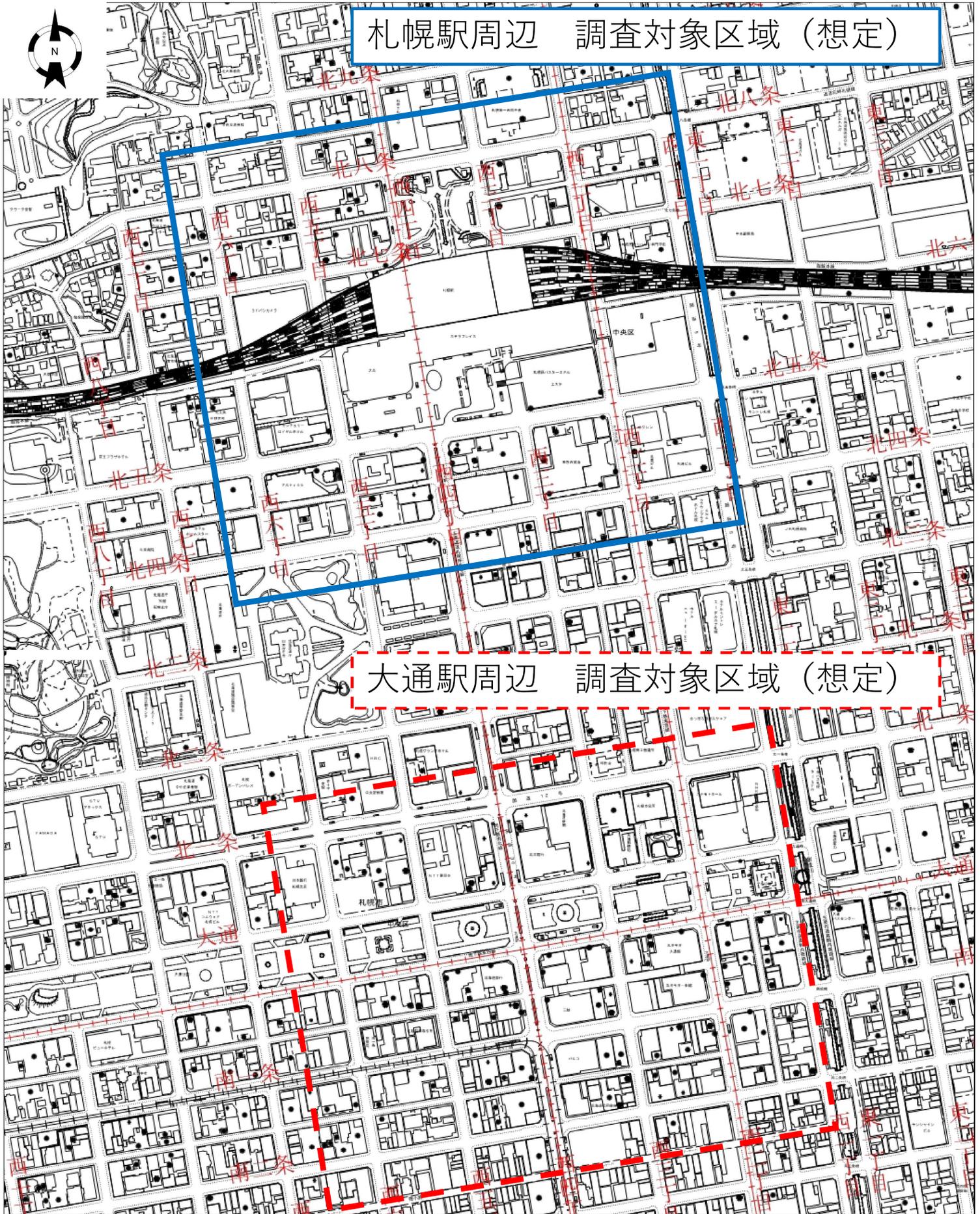
平日・休日別箇所数

平日	39
休日	19

※上記情報は本業務における調査対象駐車場の諸元および調査情報を確約するものではない。

札幌駅周辺 調査対象区域（想定）

大通駅周辺 調査対象区域（想定）



※図に示した区域は発注時の想定範囲であり、業務主任と打ち合わせの上、詳細を決定する

令和5年度駐車場利用実態調査業務 【調査】

一 金 0 円

		内 訳			内訳 第1号		
名 称	形 質	単位	数量	単 価	金 額	摘 要	番 号
1-1. 駐車場の利用 台数調査 (秋期)		式	1			冬期補正有	単-1-1
1-2. 駐車場の利用 台数調査 (冬期)		式	1			冬期補正有	単-1-2
2-1. 交通環境調査 (秋期)		式	1			冬期補正有	単-2-1
2-2. 交通環境調査 (冬期)		式	1			冬期補正有	単-2-2
直接調査費 (計)		式	1				
諸経費		式	1			諸経费率= 371.23× (直接調査費)	-0.107
調査 計							
再計							

令和5年度駐車場利用実態調査業務 【検討】

一 金 0 円

名 称	形 質	内 訳			内訳 第2号		
		単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要	番 号
3. 駐車場利用に関する実地アンケート調査		式	1				単-3
4. 駐車場事業者アンケート調査 (WEB)		式	1				単-4
5. とりまとめ・報告書作成		式	1				単-5
6. 打合せ	中間1回	式	1				単-6
直接人件費 (計)							
直接経費 (電子成果品作成費)		式	1			$5.1 \times (\text{直人})^{0.38}$	
その他原価		式	1			$\text{直人} \times (\alpha \div (1 - \alpha))$ $\alpha = 35\%, \alpha \div (1 - \alpha) = 53.85\%$	
業務原価計							
一般管理費		式	1			$\text{業務原価} \times (\beta \div (1 - \beta))$ $\beta = 35\%, \beta \div (1 - \beta) = 53.85\%$	
検討業務 計							
再計							

単 価 算 出 調 書 ② 【検討】

細 目	単位	単 価	積 算 の 基 礎				
3. 駐車場利用に関するアンケート調査（実地）	式		主任技師	0.3 人 ×	円/人 =	円	見積による策定歩掛
			技師（A）	1.5 人 ×	円/人 =	円	
			技師（B）	4.1 人 ×	円/人 =	円	
			技師（C）	11.8 人 ×	円/人 =	円	
			技術員	25.8 人 ×	円/人 =	円	
					計	円	
4. 駐車場事業者アンケート調査（WEB）	式		主任技師	0.9 人 ×	円/人 =	円	見積による策定歩掛
			技師（A）	1.9 人 ×	円/人 =	円	
			技師（B）	3.5 人 ×	円/人 =	円	
			技師（C）	5.3 人 ×	円/人 =	円	
			技術員	4.8 人 ×	円/人 =	円	
					計	円	
5. とりまとめ・報告書作成	式		主任技師	0.6 人 ×	円/人 =	円	見積による策定歩掛
			技師（A）	1.1 人 ×	円/人 =	円	
			技師（B）	1.8 人 ×	円/人 =	円	
			技師（C）	2.1 人 ×	円/人 =	円	
			技術員	1.5 人 ×	円/人 =	円	
					計	円	
6. 打ち合わせ・協議	式		※ 調査設計等委託積算基準より【中間打合せ1回】			業務委託積算基準	
			主任技師	1.5 人 ×	円/人 =		円
			技師（A）	1.5 人 ×	円/人 =		円
			技師（B）	1.5 人 ×	円/人 =		円
					計	円	

印紙
貼付

契 約 書

役務の名称 令和5年度駐車場利用実態調査業務

上記の役務について、札幌市（以下「委託者」という。）と、
（以下「受託者」という。）は、
次のとおり契約を締結する。

- 1 契約金額 金 円
(うち消費税及び地方消費税の額 円)
- 2 履行期間 年 月 日から
年 月 日まで
- 3 契約保証金 「免除」又は「金 円」
- 4 その他の事項 別紙条項のとおり

この契約の証として本書2通を作成し、当事者記名押印のうえ各自1通を保有する。

年 月 日

委託者 札幌市
代表者 市長

受託者 住 所
商号又は名称
職・氏名

注) 印紙については、契約の種別ごとに課税対象であるか否かを確認すること。

役務一第6号様式 役務契約約款（令和5年4月1日施行）

（総則）

第1条 委託者及び受託者は、この約款（契約書を含む。以下同じ。）に基づき、仕様書（設計図、見本等を含む。以下同じ。）に従い、この契約（この約款及び仕様書を内容とする役務契約をいう。以下同じ。）の履行にあたって適用される法令を遵守し、これを履行しなければならない。

2 受託者は、役務（この契約に基づき履行する役務をいう。以下同じ。）を、この契約の履行期間内において履行するものとし、委託者は、履行が完了した役務に対し、契約金額を支払うものとする。

3 この契約の履行に関して委託者と受託者との間で用いる言語は、日本語とする。

4 この約款に定める金銭の支払いに用いる通貨は、日本円とする。

5 この契約は、日本国の法令に準拠するものとする。

6 この約款に定める承諾、通知（第9条第2項を除く。）、請求、指示、催告、表示及び解除は、原則として書面にて行わなければならない。

（秘密の保持）

第2条 受託者は、役務の遂行上知り得た秘密を他人に漏らしてはならない。

（契約保証金）

第3条 受託者は、この契約の締結と同時に契約保証金を納付しなければならない。ただし、委託者が、札幌市契約規則（平成4年規則第9号）第25条の規定に基づき契約保証金の納付を免除した場合は、この限りでない。

2 前項の契約保証金の額は、契約金額の100分の10以上としなければならない。

（権利義務の譲渡等の禁止）

第4条 受託者は、この契約によって生ずる権利若しくは義務を第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、あらかじめ委託者の承諾を得た場合はこの限りではない。

（再委託の禁止）

第5条 受託者は、役務の全部若しくは一部を第三者に委託してはならない。ただし、役務の一部であって、役務の性質上特に委託者がやむを得ないと認めた場合は、この限りではない。

2 受託者は、前項ただし書の規定により役務の一部を第三者に委託しようとするときは、あらかじめ、委託者の承諾を得なければならない。

3 委託者は、前項の承諾にあたり、受託者に対して、受託者が第1項の規定ただし書の規定により役務の一部を委託する第三者の商号又は名称、住所、委託する役務の範囲、その他必要な事項の通知を求めることができる。

4 受託者は、第1項及び第2項の規定により役務の一部を第三者に委託した場合、委託者に対し、当該委託に基づく当該第三者の受託に係る全ての行為について責任を負うものとする。

（監督等）

第6条 委託者は、適正な役務の遂行を図るため、受託者に対して常に状況に応じた監督を行い、この契約の履行を確保するものとする。

2 受託者は、前項の規定による委託者の監督を受け、委託者から役務改善命令等がなされ

役務一第6号様式 役務契約約款（令和5年4月1日施行）

た場合には、その補正等の措置をしなければならない。

（委託者に対する損害賠償）

第7条 受託者は、役務の遂行上において、受託者の責めに帰すべき事由により委託者に損害を与えた場合には、第13条の2の規定に基づき損害を賠償する場合を除き、委託者の定めるところにより、その一切の損害を賠償しなければならない。

（第三者に対する損害賠償）

第8条 受託者は、役務の遂行上において、受託者の責めに帰すべき事由により第三者に損害を与えた場合には、その一切の損害を賠償しなければならない。

（検査等）

第9条 受託者は、役務を完了したときは、遅滞なくその旨を委託者に通知しなければならない。

2 委託者は、前項の規定による通知を受けたときは、その日から起算して10日以内（以下「検査期間」という。）に受託者の立会のもとに役務内容の検査（以下「完了検査」という。）を行い、その結果を受託者に通知するものとする。

3 受託者は、完了検査に合格しないときは、委託者の指示する期間内にこれを補正しなければならない。この場合の補正の完了の通知及び検査については、前2項の規定を準用する。

（契約金額の支払）

第10条 受託者は、完了検査に合格したときは、契約金額の支払を請求することができる。

2 委託者は、前項の規定による請求があったときは、請求を受けた日から30日以内（以下「約定期間」という。）に前項の契約金額を支払わなければならない。

3 委託者がその責めに帰すべき事由により検査期間内に完了検査をしないときは、その期限を経過した日から完了検査の結果を通知した日までの期間の日数は、約定期間の日数から差し引くものとする。この場合において、その差し引く日数が約定期間の日数を超えるときは、約定期間は、その超えた日において満了したものとみなす。

4 委託者は、この契約の履行に際して、一部履行しない役務がある場合には、第1項の契約金額から当該履行しない割合に相当する金額を減額することができる。

5 委託者は、受託者が委託者に損害を与えたときには、委託者と受託者との協議成立までの間、第1項の契約金額の支払を保留することができる。

（履行遅延の場合における違約金等）

第11条 受託者の責めに帰すべき事由により履行期間内に役務を完了することができない場合においては、委託者は、違約金の支払を受託者に請求することができる。

2 前項の違約金の額は、契約金額につき、履行期間満了日の翌日から完了検査（第9条第3項で準用する場合を含む。）に合格した日までの日数に応じ、契約締結の日において適用される政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和24年法律第256号）第8条第1項の規定に基づき政府契約の支払遅延に対する遅延利息の率（昭和24年12月大蔵省告示第991号）において定める割合（以下「違約金算定率」という。）で計算した額（100円未満の端数があるとき、又は100円未満であるときは、その端数額又はその全額を切り捨てる。）とする。ただし、遅延日数は、当該完了検査に要した日数を除くものとする。

役務—第6号様式 役務契約約款（令和5年4月1日施行）

- 3 契約により期日を定めて分割履行する場合は、第1項の違約金は、その分割量に応ずる契約金額を基準とする。ただし、全部の履行がなされなければ契約の目的が達せられないときは、この限りでない。
- 4 受託者は、天災その他の受託者の責めに帰することができない事由により履行期間内に役務の履行ができないときは、委託者と協議のうえ、履行期間の延長を行うことができる。ただし、役務の性質上、特定の日時又は一定の期間内に履行しなければ契約をした目的を達することができない場合においては、この限りでない。
- 5 委託者の責めに帰すべき事由により、前条第2項の規定による契約金額の支払が遅れた場合において、受託者は、未受領金額につき、遅延日数に応じ、違約金算定率で計算した額の遅延利息の支払を委託者に請求することができる。

（談合行為に対する措置）

第12条 受託者は、この契約に係る入札に関して、次の各号の一に該当したときは、契約金額の10分の2に相当する額を委託者に支払わなければならない。この契約による役務が完了した後においても、同様とする。

- (1) 公正取引委員会が、受託者に違反行為があったとして私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第49条に規定する排除措置命令（排除措置命令がされなかった場合にあつては、同法第62条第1項に規定する納付命令）が確定したとき。
- (2) 受託者又は受託者の役員若しくは使用人が刑法（明治40年法律第45号）第96条の6の規定に該当し、刑が確定（執行猶予の場合を含む。）したとき。
- (3) 前2号に規定するもののほか、受託者又は受託者の役員若しくは使用人が独占禁止法又は刑法第96条の6の規定に該当する違法な行為をしたことが明らかになったとき。

2 前項に規定する場合においては、委託者は、契約を解除することができる。

3 前2項の規定は、委託者の受託者に対する損害賠償請求を妨げるものではない。

（契約の解除等）

第13条 委託者は受託者が次の各号のいずれかに該当するときは、相当の期間を定めてその履行の催告をし、その期間内に履行がないときは、この契約を解除することができる。ただし、その期間を経過したときにおいて、当該不履行が、この契約及び取引上の社会通念に照らして軽微であるときは、この限りでない。

- (1) 履行期間内に役務の全部又は一部を履行しないとき。
- (2) 第9条第3項の規定に基づき、委託者が指示した期間内に補正しないとき。
- (3) 前各号に掲げる場合のほか、この契約に違反しているとき。

2 委託者は、受託者が次の各号のいずれかに該当するときは、直ちに契約の解除をすることができる。

- (1) 役務が履行不能であるとき。
- (2) 役務の履行を拒絶する意思を明確に表示したとき。
- (3) 役務の一部の履行が不能である場合又は役務の一部の履行を拒絶する意思を明確に表示した場合において、残存する履行済み部分のみでは契約の目的を達することができないとき。

役務—第6号様式 役務契約約款（令和5年4月1日施行）

- (4) 役務の性質や当事者の意思表示により、特定の日時又は一定の期間内に履行しなければ契約をした目的を達することができない場合において、受託者が履行をしないでその期間を経過したとき。
 - (5) 地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の4第1項及び第2項の規定により一般競争入札に参加することができなくなったとき。
 - (6) この契約の締結若しくは履行又は入札に関し、不法の行為又は札幌市契約規則に違反する行為をしたとき。
 - (7) 第4条の規定に違反し、委託者の承諾を得ずにこの契約から生じる債権を譲渡したとき。
 - (8) 受託者が次のいずれかに該当するとき。
 - イ 役員等（受託者が個人である場合にはその者その他経営に実質的に関与している者を、受託者が法人である場合にはその役員、その支店又は営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者その他経営に実質的に関与している者を、受託者が団体である場合は代表者、理事その他経営に実質的に関与している者をいう。以下この号において同じ。）が、暴力団（札幌市暴力団の排除の推進に関する条例（平成25年条例第6号）第2条第1号に規定する暴力団をいう。以下この号において同じ。）又は暴力団員（札幌市暴力団の排除の推進に関する条例第2条第2号に規定する暴力団員をいう。以下この号において同じ。）であると認められるとき。
 - ロ 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしていると認められるとき。
 - ハ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。
 - ニ 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれを不当に利用するなどしていると認められるとき。
 - ホ 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。
 - ヘ 再委託契約、資材の購入契約その他この契約に関連する契約（トにおいて「関連契約」という。）の相手方がイからホまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。
 - ト 受託者が、イからホのいずれかに該当する者を関連契約の相手方としていた場合（ヘに該当する場合を除く。）に、委託者が受託者に対して当該契約の解除を求めたにもかかわらず、受託者がこれに応じなかったとき。
 - チ 暴力団又は暴力団員に、この契約から生じる債権を譲渡したことが判明したとき。
 - (9) 前各号に掲げる場合のほか、委託者が前項の催告をしても、契約の目的を達するのに足りる履行がなされる見込みがないことが明らかであるとき、又は契約を継続し難い重大な事由があると認められるとき。
- 3 委託者は、第1項又は前項（第8号を除く。）の規定により契約を解除した場合において、受託者が既に完了した部分の役務において提供を受ける必要があると認めたときは、当該

役務一第6号様式 役務契約約款（令和5年4月1日施行）

完了部分の完了検査を行い、当該検査に合格した役務の提供を受けることができる。この場合、委託者は、当該提供を受けた役務の完了部分に相当する契約金額を受託者に支払わなければならない。

- 4 受託者は、第1項又は第2項の規定により契約を解除された場合に受託者に損害が生ずることがあっても、委託者に対してその損害の賠償を求めることができない。
- 5 第1項各号又は第2項各号（第8号を除く。）に定める場合が、委託者の責めに帰すべき事由によるものであるときは、委託者は、第1項又は第2項の規定による契約の解除をすることができない。

（契約が解除された場合等の賠償金）

第13条の2 次の各号のいずれかに該当する場合には、委託者は、契約金額の100分の10に相当する金額（委託者に生じた実際の損害額が当該金額を超過する場合は、当該損害額）を賠償金として請求することができる。

- (1) 前条第1項又は第2項の規定によりこの契約が解除された場合
 - (2) 受託者がその債務の履行を拒否し、又は、受託者の責めに帰すべき事由によって受託者の債務について履行不能となった場合
- 2 次の各号に掲げる者がこの契約を解除した場合は、前項第2号に該当する場合とみなす。
- (1) 受託者について破産手続開始の決定があった場合において、破産法（平成16年法律第75号）の規定により選任された破産管財人
 - (2) 受託者について更生手続開始の決定があった場合において、会社更生法（平成14年法律第154号）の規定により選任された管財人
 - (3) 受託者について再生手続開始の決定があった場合において、民事再生法（平成11年法律第225号）の規定により選任された再生債務者等
- 3 第1項の場合において、第3条の規定により契約保証金が納付されているときは、委託者は、当該契約保証金をもって第1項の賠償金に充当することができる。

（契約解除に伴う措置）

第13条の3 受託者は、第13条の規定に基づきこの契約が解除された場合において、貸与品、支給材料等（使用部分済みを除く。以下同じ。）があるときは、遅滞なくこれらを委託者に返還しなければならない。この場合において、当該貸与品、支給材料等が受託者の故意又は過失により滅失又はき損したときは、代品を納め、若しくは原状に復して返還し、又はこれらに代えてその損害を賠償しなければならない。

- 2 受託者は、第13条の規定に基づきこの契約が解除された場合において、委託者が所有又は管理する履行場所（以下「履行場所」という。）に受託者が所有する器具、材料その他の物品があるときは、遅滞なく当該物品等を撤去（委託者に返還する貸与品、支給材料等については、委託者の指定する場所へ搬出。以下同じ。）するとともに、履行場所を原状に復して委託者へ明け渡さなければならない。
- 3 前項の場合において、受託者が正当な理由なく、相当の期間内に当該物件を撤去せず、又は履行場所の原状回復を行わないときは、委託者は、受託者に代わって当該物品等を処分し、履行場所の原状回復を行うことができる。この場合において、受託者は、委託者の処分又は原状回復について異議を申し出ることとはできず、また、委託者が処分又は原状回

役務―第6号様式 役務契約約款（令和5年4月1日施行）

復に要した費用を負担しなければならない。

4 第1項及び第2項に規定する受託者が行う原状回復等の期限及び方法については、委託者が指示するものとする。

（契約保証金の返還）

第14条 委託者は、受託者が履行期間中の全ての役務を完了し、完了検査に合格したときは、契約保証金を返還しなければならない。

（裁判管轄）

第15条 この契約に関する訴訟は、委託者の所在地を管轄する裁判所に提訴する。

（個人情報の保護）

第16条 受託者は、この契約による業務を処理するに当たって個人情報を取り扱う際には、業務仕様書中「個人情報の取扱いに関する特記事項」を守らなければならない。

（その他）

第17条 受託者は、この約款に定めるもののほか、札幌市契約規則及び労働基準法（昭和22年法律第49号）、最低賃金法（昭和34年法律第137号）、労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）その他の労働及び社会保険に関する法令を遵守するものとする。

2 受託者は、委託者から、業務従事者の賃金支給状況、社会保険加入状況その他労働契約状況が確認できる書類の提出を求められたときは、これに応じなければならない。

3 この約款に定めのない事項及びこの契約に疑義が生じたときは、委託者と受託者とが協議のうえ定めるものとする。